

施策評価表(平成20年度の振り返り、総括)

作成日 平成 21 年 4 月 1 日

施策No.	29	施策名	男女共同参画社会の実現
主管課名	地域協働課	主管課長名	畠山 正毅
関係課名	こども課、健康センター、商工観光課、学校教育課、生涯学習・スポーツ課		

施策の目的 【対象】	市民	対象指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		人口	人	46,723	46,459	46,036		

施策の目的 【意図】	市民(男女)が、性別にかかわらず個人として尊重され、一人一人にその個性と能力を発揮する機会が確保されることにより、社会のあらゆる分野における活動に対等な立場で共に参画している。	成果指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度目標	22年度目標
		①委員会、審議会等への女性登用の比率	%	26.7	27.9	28.4	29.0	30.0
②YOU&愛2006第3章の「プラン実施計画」の関連指標		数値なし	数値なし	数値なし	数値なし	数値なし		

成果指標設定の考え方	<p>①公的な委員会や審議会への女性の参加率をみることで、実際に男女共同参画がどの程度進められているかを測れるので、これを成果指標とした。</p> <p>②YOU&愛2006第3章の「プラン実施計画」の関連指標を成果指標とする必要がある。</p>
------------	---

成果指標の把握方法(算定式など)	<p>① 県経由で内閣府に報告している「男女共同参画関係施策及び女性の公職参加状況について」で把握 (行政の執行機関における女性の委員数+法律に基づいて市が設置している女性の委員数+法律・条例・要綱に基づいて設置している審議会の女性の委員数)÷これにかかる委員数×100</p> <p>②YOU&愛2006第3章の「プラン実施計画」の関連指標を成果指標とする必要があるが、進捗状況等を全く把握していない。</p>
------------------	---

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民	男女共同参画の目的を理解し、実践してもらう。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画の意識啓発や相談事業等の支援を行っていく。 公的な場で、まず率先して男女共同参画の実践に取り組んでいく。
	その他	<p>【事業者の役割】</p> <p>男女共同参画の目的を理解して、実践に努める。</p>

施策No.	29	施策名	男女共同参画社会の実現
20年度の 評価結果	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)		
	17年度に向こう10年を見据えた魚津市男女共同参画プランを策定した。 市から委嘱された男女共同参画推進員の啓発活動を進めている。 今年度は、各公民館関係役員と懇談会をもちながら、男女共同参画社会への協力と理解等啓発に努めた。		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)		
	県が認定する男女共同参画推進員26人(魚津市の場合は、市の推進員を兼ねている)が、各市町村で県の指導のもと、活動している。 推進員は滑川市18人、黒部市28人であり(一地区二人計算)、同じ水準である。		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)		
	今までの日常的慣習は、まだ、高齢者を中心に残っているが、若者層を中心に少しずつ改善されてきている。 将来の男女共同参画社会の構築については期待は大きい。		
2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ・「魚津市男女共同参画プラン」が作成されたことにより、今後の男女共同参画社会への方向が示された。 ・各地区の公民館関係者に集まっていただき、各ブロックを設定した地域へ出前講座と題して、各地域への理解と啓発に努めた。 男女共同参画社会への構築が、市民、企業にも少しずつ理解されてきている。 <ul style="list-style-type: none"> ・YOU&愛2006第3章の「プラン実施計画」の関連指標を目標とした進捗状況を把握し、達成に向け事業を展開しなければならない。 			
3. 施策の課題認識及び21年度の取り組み状況(予定) (20年度末で残った課題、既に21年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ◆男女共同参画推進員の出前研修から広く市民にPRした事業の取り組みが必要。 任期交替により新任の男女共同参画推進員には、定例会を通して、その目標を理解してもらおうと共に、多くの方に男女共同参画社会の必要性の理解に努める。			

	区 分	単 位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績
施策の トータル コスト	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	1	1	1		
	B. 事業費 (事務事業の事業費合計)	千円	510	556	612		
	C. 事務事業に要する年間総時間	時間	600	900	1,100		
	D. 人件費 (C×1時間あたりの平均人件費)	千円	2,466	3,609	4,626		
	E. トータルコスト (B+D)	千円	2,976	4,165	5,238	0	0
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の						
	F. 事業費 (定義式 : B/人口)	円	11	12	13		
	同 上 G. 人件費 (定義式 : D/人口)	円	53	77	100		
	同 上 H. トータルコスト (定義式 : E/人口)	円	64	89	114		